

TYPE OF  
INDUSTRY



科学技術・大学

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

109

画像認識技術に代表されるように、近年センサーで取得した画像データからコンピューターが自動で必要な情報を抽出する自動情報抽出技術が著しく発展してきている。装置の高度化に伴い、扱うデータも膨大な量となっ

情報通信研究機構 置開発およびデータ解の災害観測で取得した画像は1辺25平方メートルであった。一方、1回の観測で撮像できる地表の範囲は概して100平方メートル超である。

情報通信研究機構 置開発およびデータ解の災害観測で取得した画像は1辺25平方メートルであった。一方、1回の観測で撮像できる地表の範囲は概して100平方メートル超である。

情報通信研究機構 置開発およびデータ解の災害観測で取得した画像は1辺25平方メートルであった。一方、1回の観測で撮像できる地表の範囲は概して100平方メートル超である。

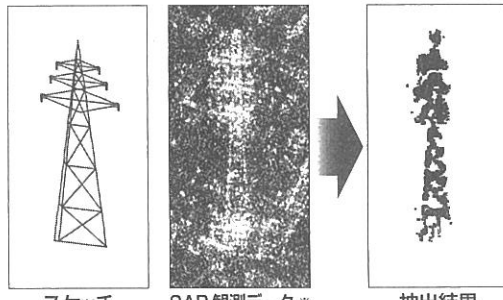
## 自動情報抽出技術 居住・被災状況を把握

電磁波研究所・リモートセンシング研究室主任 上本純平

08年東北大学大学院卒、同年NICT入所。超高層大気物理に関する研究に従事。16年より現職。現在は航空機搭載合成開口レーダーに関する装置開発・データ解析手法の研究に従事。博士（理学）。



観測画像をディスプレイの歪みが生じているため、情報の読み取りに苦慮することになる。観測画像には観測原理に由来する独特の歪みが生じているため、情報の読み取りに苦慮することになる。観測画像には観測原理に由来する独特の歪みが生じているため、情報の読み取りに苦慮することになる。



※本抽出手法は干渉 SAR データセットに適用する

送電鉄塔に人工物・樹木などの自動抽出技術を適用した例。居住環境の把握などへ利用できる

自動情報抽出に関する技術開発の必要性はますます高まるものと思われる。居住環境や被災地状況の把握に役立つような自動情報抽出技術の開発をこれからも進めていきたい。

(火曜日に掲載)